



JIC インフォメーション

第 157 号 2009 年 6 月 10 日

年 6 回 1・2・4・6・9・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連 国際交流誌



この夏のオススメ ロシア語研修

詳細は P15 をご覧ください！

<http://www.jic-web.co.jp>



感謝とともに思うこと ～ソ連(ロシア)交流における

上田卓三さんの功績～ 伏田昌義・・・2-8P

海の「むこうの」国の「むこうの」世界 佐野洋子・・・9P

「ロシア・旧ソ連製旅客機を訪ねて」第 4 回 Tu-134

鈴木一、平井伸彦・・・10-11P

東京おもちゃ美術館にてロシアのおもちゃ展開催中！11P

ワガノワ・バレエ・アカデミーの歴史 浦林裕理・・・12-13P

ロシア文化フェスティバル 2009 プログラム・・・14P

J I C モスクワ通信 Vol. 16・・・15P

J I C 情報・・・15-16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会) 会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

感謝とともに思うこと



～ソ連(ロシア)交流における上田卓三さんの功績～



伏田 昌義 (JIC国際親善交流センター副会長)
(ジェーアイシー旅行センター(株)代表取締役)

この 5 月 26 日で、JIC国際親善交流センターの設立者であり、会長であった上田卓三さんが 2005 年に 67 歳で亡くなられてから 4 年が経ちます。上田卓三会長を偲び、JIC の対ソ連(ロシア)交流活動と上田会長の業績について、大変遅ればせながらではありますが、追悼文を略年表とともに掲載させていただきます。



あれは確か 1977 年の 4 月か 5 月だったと思う。当時、私は大学の 6 回生だった。その 2 年前の春に起こった学生運動のゴタゴタ(民学同の分裂)で、2 年間大学の授業もロクに受けずに常任活動家をやり、ようやく学生組織を立て直して大学に戻った頃だった。何とかしてあと 1 年で卒業せねばとあせりつつ、2 年間のブランクで身についた怠惰に流される日々を送っていた。「伏田君、ちょっと手伝ってくれよ!」。畏敬する大先輩である吉田勝次さんから突然、東京に呼び出された。吉田さんは、その前年 12 月、衆議院議員に初当選した上田卓三さん(社会党、大阪四区選出)の国会秘書として、ブルドーザーのような勢いで質問原稿を量産している最中だった。「今、200 海里問題で新しい海洋法が審議されている。200 海里経済水域の線引きをめぐってやがて日ソ関係は大揺れになる。その時に備えて準備資料の整理を手伝ってくれ」という有無を言わさぬ指令。3-4 日ばかり東京に泊り込んでいくつかの資料を読みレポートを作成したことを記憶している。その前年(1976 年)の秋にゼミの指導教官である小野義彦先生(故人)に示唆されて「日ソ国交回復 20 周年によせて～生活が要求する日ソ平和条約」という小文を学生新聞に書いたのが吉田さんの目にとまったらしい。

その後、それまでサボり倒していたすべての授業の単位を 1 年間で取得して、1978 年の春にさくとうて大学を卒業した私は、その年の 6 月から上田卓三事務所に拾われて、私設秘書として働き始めた。以来、上田さんと吉田さんのもとで、奇しくも日ソ(日ロ)関係の仕事にずっと携わるようになった。

* * * * *

1977 年から 78 年にかけて、北方四島周辺での 200 海里経済水域の線引き(日ソ漁業交渉)をめぐって日本国内に吹き荒れた「反ソキャンペーン」はすさまじいばかりだった。その後も、いわゆる「ソ連脅威論」が日本と世界を覆い、「第二

の冷戦」と呼ばれる厳しい国際関係が 1980 年代末まで続いた。

1970 年代前半の国際情勢は米ソのデタント(緊張緩和)で特徴づけられる。1972 年 2 月のニクソン訪中、5 月のニクソン訪ソで緊張緩和ムードが一気に高まった。1973 年秋の石油危機(第一次オイルショック)は西側諸国に資源大国・ソ連との関係改善を急がせる追い風となった。日ソ関係においても、1973 年 6 月に田中角栄首相が訪ソしブレジネフ書記長と会談、1974 年 3 月には土光敏夫・経団連会長が数百人の財界人を率いて訪ソ、シベリア開発とバム鉄道(第二シベリア鉄道)建設について協議を進めた。

それに対し、ソ連との緊張緩和を望まず、冷戦的圧力を強めることでソ連社会主義を崩壊に追い込もうとするタカ派の巻き返しが、1970 年代後半から強力に開始された。欧州への中距離核ミサイルの配備(1977 年)やレーガン大統領のスターウォーズ計画(SDI 戦略防衛構想)などがそれである。軍備増強を正当化するために、「ソ連はいつ侵略してくるか分からない凶暴な北方の熊である」という「ソ連脅威論」が全世界に撒き散らされた。ソ連のブレジネフ指導部がアフガニスタンに侵攻する(1979 年 12 月)という失策を犯したことが「脅威論」に拍車をかける結果を招いた。

日本でも、1976 年 9 月にソ連空軍のベレンコ中尉が当時最新鋭といわれたミグ 25 戦闘機に乗って北海道の函館に強制着陸してアメリカに亡命する事件が発生。日本政府はソ連の抗議を無視してこの最新鋭戦闘機を徹底解体してから返却し、日ソ関係改善ムードを一挙に冷え込ませた。そして続く 200 海里問題である。日本国内はまさに「反ソ」一色に塗りつぶされた観があった。

この時期の反ソ・キャンペーン、ソ連脅威論がいかにレトリックに満ちたものであったかは、例えば空母ミンスクのウラジオストク回航(1979 年 2-7 月)をめぐり新聞、テレビ各社の大騒ぎを見ても明らかである。空母ミンスクは 1978 年に竣工、1979 年 2 月に黒海のセバストポリ港を出てソ連太平洋艦隊配備のためウラジオストクに回航された。全長 273m、総排水量 41400 トンの軽空母(航空巡洋艦)である。ミンスクの 10 年以上前に竣工したアメリカの原子力空母エンタープライズ(全長 343m、総排水量 85350 トン)と比べても格段に小さい軽空母を、新聞各社は「最新鋭の重武装航空母艦がウ

ラジオストクに配備され、日本海をウロウロしている」と、連日のように空撮写真付きで報道し、国民の恐怖心を煽り立てたのである(その後、ミンスクは 1989 年に機関事故を起こして航行不能になり退役、長らく極東の港に係留されたままになっていたが、95 年スクラップとして韓国に売却された。「用済み」となった空母ミンスクのその後を報道する新聞はなかった)。

「ソ連脅威論」と断固闘った上田さん

このような時期に、政治家としての第一歩を記した上田卓三さんの政治活動は、外交面では当然のように、米ソ冷戦をいかに緩和するか、そのために極度に冷え込んだ日ソ関係をいかに改善するかに重点が注がれた。

上田さんの対ソ連(ロシア)交流における功績の第一は、1970 年代後半から 80 年代末まで続いた「第二の冷戦」時代に、「ソ連脅威論」の大合唱に屈せず、『国賊』『スパイ』の非難をものともせず、敢然と日ソ(日ロ)交流の必要性を訴え、実践したことである。他の多くの政治家が「時期が悪い」、「票にならない」(選挙に不利)と日ソ関係に取り組むことに尻込みをしていた時、上田さんは徹底して「闘う政治家」として日ソ関係、日ソ交流活動の舞台に登場した。

ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して、日本を含む西側諸国の多くが 1980 年のモスクワオリンピックをボイコットしたが、上田さんは「スポーツに政治を持ち込むのは危険。こんな時こそ対話の糸口を探すべきだ」と自らアエロフロート機を 2 機チャーターし、300 名の大型観戦団を派遣した。その後も、ソ連沿海州のナホトカに毎年、青年交流の船を出し(1981 年から 91 年まで)、ソ連から大型代表団を招いてシンポジウムを開くなど(1981 年、84 年)、民間交流を活性化させるためにインパクトのある取組みを精力的に推し進めた。こんな活動が目立ちすぎたのか、1983 年にアメリカからもたらされた「レフチェンコ・スパイ報道」(ソ連「新世界」誌の元東京特派員・レフチェンコ氏がアメリカに亡命し、米議会でスパイ活動を証言した)では、上田さんはソ連のスパイと名指しされる「榮譽」にも浴した。しかし、それでもへこたれないのが上田さんである。「ソ連から金なんか一銭ももらってない。逆に日ソ交流は持ち出しばかりや」と、この問題を大々的に報道したリーダーズダイジェスト社を名誉毀損で告訴、最後まで闘う姿勢を貫いた。

当時、国会で取り上げるのがタブー視されていた天皇制の問題に、反差別・人間解放の立場から果敢に切り込んだ上田さん。ソ連脅威論に屈せず日ソ関係の改善のために闘う姿勢を貫いた上田さん。「あの人は本当に勇気のある政治家だ」と、心ある多くの人たちから上田さんは尊敬を集めた。その上田さんの政治外交活動に戦略的な方向性を与え、理論的にも精神的にも上田さんを支えていたのが吉田勝次さんだった。当時の私は、2 人の下でただ実務的な仕事に

追い使われていたに過ぎないが、それでも上田さんの事績の一部をともに担うことができたことは、今でも私の密かな誇りであり喜びとなっている。あのころ、上田さんとともに自分も確かに歴史の一部に参加していたと思う。

ペレストロイカに期待し

活発な学術交流、政治交流を組織した上田さん

上田さんの対ソ連(ロシア)交流における第二の功績は、1980 年代後半、ゴルバチョフ改革(ペレストロイカ)を見守り、その進展を促すべく活発な知的交流を組織したことである。ソ連共産党国際部(保守派)から改革逆行の圧力も受けたが、あくまで主体性を貫いた。ここでも上田さんはやはり「闘う政治家」だった。

1985 年にゴルバチョフ書記長が登場するや、停滞していたソ連社会の空気は目に見えて変化しはじめた。「ソ連脅威論」は世界を戦争の瀬戸際に追い込む危険な軍事冒険主義を誘発するとして、私たちは日ソ関係の改善を終始強く訴え続けたが、さりとてソ連社会主義が「理想社会」であると単純に信じ込んでいたわけでは決してなかった。

私自身は学生時代にマルクスやレーニンの著作に親しんでいただけに、人権侵害や公害、社会矛盾に満ちた資本主義社会の対極にある「ある種の理想社会」として社会主義にあこがれ、そのような立場からソ連に接近したことは事実である。今でも、社会的公正を求める運動としての社会主義の理念には 19 世紀から 20 世紀を通じて世界の人々に巨大な影響を与え、歴史を動かした偉大な思想性があったと考えている。しかし、仕事相手として付き合うソ連(ロシア)社会はおそろしく官僚的で、ロシア人たちは(個人個人はとても愛すべき人たちではあるが)おそろしく無計画かつ非能率的であった。幻滅感を味わいつつ、しかし、その中で社会主義の理念とは別に、ソ連(ロシア)社会の何かしら良い面を見つけ出して、付き合いを続けてきたというのが本当のところである(「目の前の現実に対応する」という名のもとに、理念を突き詰め問題点を明確にする作業から目をそらすという、私自身の思想的曖昧さと弱さがあったことは事実だが)。

リアリストである上田さんはとくにソ連社会がかかえる大きな矛盾に気づいていた。ことに、国民生活を豊かに潤すべき消費分野の生産の弱さとサービス業の未成熟、社会のあらゆる場面に現れる官僚主義、そして人権(民主主義)の欠如。ソ連社会の問題点や人権侵害の事実を取り上げて公然と非難するわけではないが、日本の部落解放運動・人権運動を紹介することで人権の重要性を訴える上田さんは、ソ連共産党指導部にとってもある意味で扱いにくい存在だったと思われる。

ゴルバチョフが推し進めたペレストロイカは、そんな閉塞状態のソ連社会を民主主義的に改革していく本格的な試みとして、大きな期待を持って受け止められた。

この時期、私たちは上田さんが 1982 年に設立した交流団体・国際親善交流センター(JIC)に依拠して、2 冊のゴルバチョフ論文集「未来への構想」、「革命〜ペレストロイカ」をはじめ、多数のペレストロイカ関係書籍を出版した。また、改革派の拠点の一つであったソ連知識協会(ズナーニエ)と協力して「ペレストロイカ・セミナー」(学術交流)を毎年開催、日本のソ連研究者とソ連の改革派学者・政治家との交流を積極的に行った。同時に、上田さんはいち早くロシア共和国に注目し、1987 年からロシア共和国最高会議と日本の自民党を含む超党派の議員たちとの定期交流を組織した。

中でも 1989 年 10 月にガブリエル・ポポフ、ユーリ・アフアナシェフら改革派学者を招待して東京で開催したシンポジウムは忘れられない。当時、ペレストロイカは、なかなか改革の実が上らないまま、経済改革から政治改革に重点を移し、史上初の複数候補による人民代議員選挙が実施されるなど民主化の流れが強まると同時に、バルト三国などで民族運動が急速に盛り上がりつつある時期だった。ポポフ、アフアナシェフら改革派知識人たちの大胆な発言は、大きな注目を集めた。

シンポジウム後の後日談も私個人にとって忘れがたいものになった。90 年の 1 月頃だったと思う。ソ連共産党国際部のコワレンコ副部長(故人)が来日し、上



＜1989 年 10 月に開催したシンポジウム＞

田さんとともに都内ホテルで懇談したときのことだ。「伏田さん、あなたは民主主義者ですね!」。皮肉に満ちた笑顔でコワレンコ氏は私に呼びかけた。私は、一瞬「誉められているのか」と思ったが、氏の顔つきを見て、「民主主義者」という言葉が、彼らソ連共産党(保守派)の人々にとっては人を非難する罵りの言葉であることを知った。「何であんなヤツらを日本に招待したのか」と氏は厳しく詰め寄った。上田さんと正面きって事を構えるのを避けるために、シンポジウムを企画した私に彼らは攻撃の矛先を向けたのだ。そこには「真理はわれわれ(ソ連共産党)だけが与えるのだ」という、およそ異なる考え方や意見の多様性を認めない独善主義があった。様々な欠陥があるとはいえ、多くの異なる意見を闘わせる中で真理を探究し、より良い方向を見出そうとする民主主義の考え方に対する根本的な無理解があった。上田さんは、「まあ、いろいろな考えが聞かれへんかったら面白くないがな」と笑いながら庇ってくれた。「伏田さん、あなたは民主主義者ですね!」は、私の心のなかで密かな勲章となった。

しかしながら、ペレストロイカの結果は、大方の予想をはるかに越えて進行した。全体主義的官僚社会主義から民主主義的社会主義へのソフトランディングを期待した私たちの予想に反して、ペレストロイカはソ連邦そのものの崩壊、諸共和国の独立と荒々しい市場経済、国家資本主義による社会の再編にまで突き進んでしまった。ゴルバチョフ改革は、何故、このような結末を迎えたのか。今日の目から見れば、ソ連社会のシステムと社会主義の理念そのものに内在していた欠陥ないし問題点の蓄積が、部分的な手直しでは支えきれないほどの矛盾を拡大させ、必然的にソ連崩壊を招来したと言えるかもしれない。しかし、ソ連邦がまだ健在であった 1980 年代には、上田さんを含めて私たちは誰も、このような結末を予想すらできなかった。ペレストロイカの時期にソ連社会の見直しからありうべき社会主義の姿を模索して学術交流を活発に組織したとはいえ、上田さんを含む私たちがある意味で心の拠り所にしてきた社会主義思想そのものを再検証する作業は、不十分なまま放置されていた。このことが、後述するように、1993 年に衆議院議員を引退した上田さんが、以後、一種の「精神的漂流状態」に陥った一つの要因となったと思われる。

日ロ交流を担う組織を作り、後進に残した上田さん

上田さんの功績の三番目は、国際親善交流センター(JIC)とジェーアイシー旅行センター株式会社を設立して、日ロの民間交流を恒常的に担い応援する組織的基盤を作ったことだ。政治活動の一環としての議員交流は、ともすればその議員個人の一過性の活動に終わりやすい。が、それにとどまらず、日ロ交流を日常的に担う組織を作り、後進に残してくれた上田さんの功績は計り知れない。

JIC 国際親善交流センターという交流団体を設立したおかげで、ソ連(ロシア)の諸団体との幅広い関係が出来上がり、多岐にわたる交流のチャンネルが切り開かれた。1980 年代のソ連時代を通じて作り上げられた人的・組織的關係はソ連崩壊後も生き残り、新しいロシアとの交流の基盤となった。

JIC 国際親善交流センターが 1989 年に初めてロシア語私費留学の道を切り拓いてから 20 年。この間ロシア・旧ソ連に送り出した留学生の数は延べ 2000 名を超える。JIC のロシア語留学は、経済、文化、学術分野での日ロ交流の人材育成に大きく貢献してきた。東京、大阪で開催しているロシア語講座や日本語講座、「ロシアン・フェスタ」「JIC ロシア・フェア」などのイベントもすっかり定着している。何よりも大きな力になっているのは、今やしっかりとロシア専門旅行社に育ちつつあるジェーアイシー旅行センター(株)の存在だ。旅行ビジネスを通じて人と人との交流をサポートする専門旅行社は、日本とロシアの人的交流を足元で支える「縁の下の力持ち」だ。



＜ナホトカ青年の船

到着後歓迎会でのひとコマ＞

思えば上田さんは、組織作りの名人だった。組織を立ち上げてしばらくの間はあれこれとうるさく口を挟むが、ある程度順調に進みだしたと見るや、大胆にも担当者に任せきってしまうのが「上田流」だ。

おかげで担当者とし

ての私は随分苦労したが、『好きなことを好きなようにやらせてもらった』という感謝の気持ちの方が圧倒的に強い。

感謝とともに思うこと

誰でも若いときはそうかもしれないが、上田さんのもとの仕事を始めた頃の私は結構生意気だった。上田さんに信服して上田さんのために仕事をしようという気持ちが本当に生まれたのは、1982 年頃から東京の事務所に出入りして仕事をするようになってからのことで、それまでは上田さんを「神輿」に担いで自分のやりたいことを何かしてやろうというふうな考えでいた。「上田さんが担ぐに足る『神輿』であるかどうか見極めてやろう」という気分が多分にあった。

東京で仕事をするようになり、親しく上田さんの人となりに接するようになって思ったことは、「この人は人に仕事をさせる名人だ」ということだった。それは人に命令してそうさせるというのではない。知らず知らずのうちに「この人のために何かやらなければならない」と思うようにさせる名人という意味だ。そのような気持ちを起こさせるだけの人間的魅力に溢れた人だった。国会質問の下原稿を書いて上田さんと読み合わせると、上田さんはとても率直に、しかも謙虚に、分からない点を自分よりもはるかな年下である私に聞いてくるのだった。

上田さんは本を読んで学ぶというより、人の話を耳から聞いて学ぶ人だった。いろいろな人の話を耳に入れ、その中から自分に必要なものを取り入れていくのだ。そして座談の名手だった。取り入れた知識を自分の考えに変え、分かりやすい言葉にして面白く伝えるのだ。大人数を前にした演説は率直に言って上手ではなかったが、少人数の座談会になると、その気さくで飾らない人柄がその場にいるすべての人を和ませ、実に魅力的な語り手に変身した。それはスタッフとの打ち合わせや食事の時の会話などでも存分に発揮された。その頃、上田さんを囲んで話している時、上田さんの口癖は「何か面白いことをやろうや！」だった。新しいもの好きでいささか飽きっぽかった上田さんは、とにかく何か新しいことがやりたくて仕方がない人だった。「おまえら、何かやりたいことはないのか。この上田の名前を利用して自分の

やりたいことをやれ。社会的に意義があることならなんぼでも応援するぞ。責任はワシがとってやる。どんどん面白いことをやれ！」、そう言って私たち若いスタッフを鼓舞してくれた。

同時に上田さんは「独裁者」でもあった。一度方向を決めて決断すると、決して引き下がらなかった。並外れた決断力と行動力で、社会運動、政治活動をリードした。やがて私は、「担ぐに足る神輿かどうか」と生意気に言っていた自分が、いつの間にか上田さんに嬉々として使われていることに気がついた。

上田さんには随分こき使われたし、しんどい体験もあったが、仕事はいつも楽しかった。上田さんのおかげで好きなことをやらせてもらった。JIC 国際親善交流センターを設立し、ロシア(旧ソ連)やモンゴル、中国との交流事業に関わるのができたのも上田さんのおかげだし、ジューアイシー旅行センター(株)で旅行業に携わるようになったのも上田さんのおかげだと今しみじみ思う。

「任せたらとことん任せる」主義の上田さんがトップに立っていたからこそ、そして「面白いがな、もっとやれ！」と励ましてくれたからこそ、JIC(国際親善交流センターとジューアイシー旅行センター株式会社)は、今日まで息をつないで活動を継続してくることができた。『好きなことを好きなようにやらせてもらった』ことに対して、どんなに感謝しても感謝し足りない思いを感じ続けている。上田さんから受けた恩恵を、自分も今度は次の若い世代に同じようにチャンスを与えることで分けあっていきたいと思う。

「漂流状態」の 1990 年代

ソ連崩壊後の 1990 年代、混迷と迷走をつづけるロシア社会の再編と、国際社会のグローバル化とともに進む市場原理主義の台頭を前にして、私たちは半ば立ち竦んでこの変化を見守っていた。この時期、上田さんは対ロシア交流への熱意を明らかに減退させ、その目をロシアから中国、モンゴル、さらにアメリカなどへと移していった。

腹心の秘書であり、また気を許した数少ない友人の一人でもあった吉田勝次さんが、上田さんのもとから離れざるを得なかったことも、上田さんの精神活動に深刻な打撃を与えたように私には思われる。吉田さんが抜けた穴を、私たちは必死に埋めようと努力したが、とても埋めきれものではなかった。上田さんの地元で選挙活動を支える人たち、中企連(現、ティグレ)で中小企業支援活動に取り組む人たち、部落解放同盟を中心に反差別人権運動に取り組む人たち、地方議員となって活躍する人たち、上田さんを取り巻く多くの仲間たちが、それぞれの持ち場でその能力を発揮し、上田卓三という政治家・社会活動家を強力に支えていた。しかし、私自身は、自分の持ち場の一つであり、上田さんの最も重要な活動舞台である国会での政治活動において、上田さ

んを支えきる力が自分にないことを当時強く感じていた。衆議院内閣委員会での防衛外交論議や行革論議であればまだ太刀打ちできた。しかし、大蔵委員会での税財政、金融、経済政策全般の論議となると基礎知識を欠いた付け焼刃の議論では霞ヶ関の官僚群とともに闘えるものではなかった。ましてや上田さんの政治活動に戦略的方向を与え、上田さんを精神的に支えて、衆議院議員としての活動領域を広げていくような仕事は、最初から私の能力をはるかに超えていた。私にも誰にも吉田さんの代わりは勤まらなかった。私が、もう一つの持ち場である JIC 国際親善交流センターの日ロ交流活動にのめり込んだのは、ある意味で国会議員としての上田さんを支える仕事からの逃避だったのだと思う。ここでも、「目の前の現実に対応しなければならない」という口実が私の背中を押した。

しかし、ではその JIC の日ロ交流活動を十分にやりおおせることができたのかと自問すると、その答えも極めて心もとない。振り返って見れば、実現できなかったこと、今にしてあの時もっと頑張っていればと思うことが数多くある。上田さんが国会議員を引退した 1993 年以降、JIC もまた「市場経済」の波に翻弄され、活動資金を自助努力で稼ぎ出さざるを得なくなった。そのため、活動力を大きく後退させた。やりたくてもできないことが多かった。しかし、そのような中でももっとできることがあったのではないかと思うことがある。

ソ連崩壊後も上田さんと JIC が培った旧ソ連・ロシアとの関係は容易には途切れなかった。この時期、JIC では、ロシアの健全な市場経済、民主主義制度の発展のために日本の経験に学びたいという企業や行政機関の代表グループを数多く受け入れた。ロシア語留学生を送り出す傍ら、日本語教師ボランティアを旧ソ連各地に派遣する試みも行なった。が、いずれも一民間団体でできる範囲を超えており、中途半端なものに終わらざるを得なかった。本来、民間がイニシアチブを発揮して広範囲に進めるべき「対ロシア支援活動」は、領土交渉の有利な材料に活用しようという日本外務省の「支援委員会」の活動(その内容自体は有意義なものであったし、現在もそうではあるが)に多くが取って代わられた。「2000 年までに領土問題を解決して日ロ平和条約を締結しよう」という両政府間の目標は、クラスノヤルスク会談(1997 年 11 月、橋本・エリツィン会談)、川奈会談(1998 年 4 月、同)、イルクーツク会談(2001 年 3 月、森・プーチン会談)と、首脳外交が積み重ねられ、ほとんど実現寸前までこぎつけていたにもかかわらず、広範囲な国民的支持に支えられない「密室での交渉」に終始したが故に、途中で足元をすくわれる結果となった。

日ロ交渉の最前線で奔走していた鈴木宗男議員と外務省の有能な外交官たちが、いわゆる「ムネオ疑惑」でページされ、平和条約交渉が頓挫してしまった(2001~02 年)経過を思い返すとき、「四島一括返還でなければ絶対許さない」と

いう『右』からの強烈な圧力に対して、日ロ双方の現実的な利益に立った解決を目指して平和条約交渉の進展を支えようという国民的な運動を、私たちが当時まったく作り出すことができなかったのはなぜかという痛烈な反省の思いが湧き起こる。その気になれば 90 年代を通じて、日ロ平和条約交渉を国民的に支える運動を私たちはもっと作り上げることができたはずだった。そこで社会活動家・上田卓三が果たす役割を大胆に打ち出すことができていたならば、当時の上田さんの「漂流状態」もまた違った展開を見せていたのではないかという悔いが残る。

日ロ交流の分野において、残された私たちが今これからやらなければならないことは、市民交流活動をさらに拡大し、日ロ関係に再び前向きのインパクトを与え、平和条約締結に向けた国民的圧力を形成することである。かつて上田さんのもとで JIC が持っていた若々しい力、常識にとらわれない「恐いもの知らず」のパワーを是非とも復活させたいと切に思う。

それぞれの目標

上田さんが衆議院議員を引退した 1993 年前後から、何人もの同僚や仲間、友人たちが上田さんから一定の距離を置き、遠ざかるようになっていった。1997 年に部落解放同盟中央執行委員長を辞めてからの上田さんは、次々と新奇な思いつきにとらわれては、途中で放り出す行動を繰り返した。すでに病魔が身体を深く蝕んでいたからかもしれない。上田さんの行動と精神から粘り強さが失われていった。私は、上田さんが何を一貫してやり遂げようとしているのかわからなくなった。上田さんから決定的に離れようと考えたことは一度もないが、私が上田さんのもとに足を運ぶ回数は自然と減っていった。

振り返れば、1990 年ごろから上田さん自身も衆議院議員としての自らの活動にある種の限界を感じていたのではなからうか。部落解放運動や中小企業運動など圧倒的な社会運動の力で政治活動を補ってはいいたが、政治家としての力量が直に試される議会内での活動に対して、上田さんは次第に熱意を失っていった。しかしながら、政治家・上田卓三から社会運動家・上田卓三へと立場を切り替えていくにあたって、何を抛り所に、何を目標に活動を進めればいいのか。かつての目標であった社会主義は無残にも崩壊してしまった。これは上田さんだけでなく、上田さんとともに政治運動、社会運動に参加した私たちの世代全員の問題だった。

鋭い直感で、上田さんはかなり早い時期から社会運動の中にも市場経済的な「競争原理」、「自己責任制」を導入し、運動と組織の再編を進めようと企図していたように見受けられる。しかし、上田さんの不幸は、その直感を理論的に裏づけ、整合性のある政策・方針として補強するブレーンに恵ま

れなかったことだった。性急に事を進めようとするあまり、上田さんの方針は時に大きくブレ、首尾一貫性を欠くようになった。そんな上田さんを本当の意味で支えることなく、「面従腹背」で取り巻く人が増えた。

当時、私を含めた多くの活動家が、それぞれの道を模索し、意識的にせよ、無意識的にせよ、上田さんの手元から巣立とうとしていた。本来、上田さんの立場からすれば、ある意味で自分が育てた活動家たちが自らの道を求めて自立していくのは歓迎すべきことであった。しかし、上田さん自身も暗中模索している中で、離れていく人を見るのは辛く寂しいことだったろう。時に寂しさが爆発して怒りに変わったとしても、上田さんだけを責めるわけにはいかない。晩年の上田さんの周囲から有能で誠実な人たちが距離を置いていったことの責任の半分は上田さん自身にあると思うが、もう半分はやはり上田さんを本当の意味で支えきれなかった私たちの側にあって私は思う。

私たちが何を目指すのかという「共通目標」を明確にし、確認する作業を統合して行なうことができず、各自がそれぞれの活動分野においてバラバラに進めはじめたことが、上田さんの「精神的漂流状態」の背景にあったのではないかとと思う。それは、ソ連社会主義が崩壊したとき、その根本原因を突き詰めず、社会主義に代わる目標ないし理想を私たちが明確にする作業を怠ってきたツケが回ってきたとも言える。あれ以来、もう十数年の歳月が経ってしまった。それぞれの拠り所と目標を明らかにする作業は、上田さんと同時代をとともに闘った私たち一人ひとりに委ねられている。

私自身について言えば、すでに述べたとおり、ソ連が崩壊したあとと深刻な思想的総括を行なわないままに、目の前の変化に身を任せ、この困難な時代を渡り歩いてきた。日ソ交流から日ロ交流へ、内容は似ているが社会の中での意味合いは大きく変わった。しかし、私は JIC 国際親善交流センターとジェーアイシー旅行センター(株)とともに生き残るのに必死だった。上田さんが作った2つの組織を維持し、そこで働く仲間たちの生活を守るのが当時も今も私の最重要な課題だ。けれども、私は私の「理想」を捨てたわけではない。

こんなことを言えば笑われるかもしれない。私は今も、ジェーアイシー旅行センター(株)という会社で、きわめて小規模ながら「社会主義と民主主義の実験」を継続しているつもりだ。19 世紀初頭のシャルル・フーリエ、ロバート・オーエンらの共同体、協同組合の思想は、荒々しい搾取と収奪で彩られた初期資本主義に対するアンチテーゼとして登場したが、当時の条件下で十分な実現手段を持たず、マルクス、エンゲルスから「空想的社会主義」と批判された。しかし、200 年の歳月を経て今日十分に発達し修正された資本主義の下では、ある種の「社会主義的(あるいは民主主義的)企業経営」というものは成り立ちうるのではないか。「ソーシャル・ビジネス」という概念が最近注目されているように、「ソーシャル・カ

ンパニー」というものがあってもよいのではないか。「空想的社会主義」と笑われるだろうが、私はそう思っている。

「会社は誰のものか」という議論があるが、法的な所有権は株主にあるとしても、私は、会社は「社会の公器」であり、そこで働く社員のもの、その会社と取引している関係会社のもの、その会社の商品やサービスを受け取るすべての顧客(消費者)のものだと考えている。したがって、そこで働く社員に生き甲斐と生活するに足る報酬を与えられない会社、顧客が満足する商品やサービスを提供できない会社、取引先と共存共栄をはかることの出来ない会社は、いずれ失敗し長く継続することができないと思うのだ。今日まで長期にわたって存続している会社は、必ず何らかの有用性を社会に提供しているから生き残っているのだと思う。理論的裏づけがあるわけではない。はっきりと規定された「社会主義的企業」(あるいは「民主主義的企業」)の概念があるわけではない。だから、これはあくまで私の一方的な自己規定であり「思い入れ」にすぎない。

上田さんが残してくれたジェーアイシー旅行センター(株)を経営するにあたって、私は、必要なすべての情報をスタッフに公開して、可能な限り会社を民主主義的に運営し全員参加で経営に取り組むこと、会社が上げた利益は社員にできるだけ公平に配分すること、可能な限り良好な人間関係を社員、取引先、顧客と結び、一つの公共財として会社を維持し発展させていくことを心がけてきた。「そんな甘い考えでは、この世界大不況の中で生き残れませんよ」という声が聞こえてきそう。もちろん資本主義経済の下で生きている限り、競争に打ち勝たなければならないし、冷徹な判断力を持たなければ、会社を長く存続させることはできない。世の中、良い社員、良い取引先、良い顧客ばかりとは限らない。欠陥だらけの人間が欲望の赴くままに作り上げたのがこの社会だ。しかし、それでもこの社会を民主主義的にコントロールしようと多くの人々が諦めずに努力を積み重ねてきたように、私も、可能な限り民主主義的な経営、公平な分配をめざし続けたい。民主主義者として生き抜きたい。私はそう思っている。

おわりに

今日まで、JIC 国際親善交流センターが活動を継続し、ジェーアイシー旅行センター(株)が曲がりなりにも「ロシア専門旅行社」と呼ばれて恥ずかしくない実績を積み重ねてくることができたのは、組織的支援はなくなったとはいえ、折に触れて援助の手を差し伸べてくれた上田さんとティグレ(中企連)の仲間たち、部落解放運動の友人たち、かつて一緒に仕事をした多くの先輩や仲間たちの励ましと応援があったからである。とくに、その時々温かい言葉をかけて挫けそうになる私を励ましてくれた 2 人の大先輩＝吉田勝次さんと中川治さん(元大阪府会議員、前衆議院議員)、顔を会わ

せる度に「おっ、ふっしゅん元気か、大丈夫か」と声をかけてくれる大西甚五郎さん(元上田卓三後援会事務局長)、「大変やねえ。頑張ってるね」と心を和ませてくれる上田孝子さん(上田卓三夫人)、会社経営というおおよそ似つかわしくないことを始めた私を時にからかいながら気遣ってくれた学生時代からの友人たち、その他多くの先輩、仲間の皆さんに心から感謝を述べたい。

さらに、1996 年に完全に独立した会社として再出発すると決めたとき、「給料が出なくなるかもしれない。それでも、一緒にやろう!」と苦勞を共にしてくれた杉浦信也君をはじめ平井泰夫、三宅まゆみ、小原浩子、中子富貴子、百瀬智佳子さんら同僚、仲間たちの力強い支えがなければ、困難なこの十数年間を乗り越えてくることはできなかった。当初の仲間のうち何人かはすでに自分の道を歩きだしているが、新しく加わってくれた若いスタッフたちもたくさん増えた。「親が頼りないと子がしっかりする」の例えのとおり、「この会社はこんなのでいいんですか!」と若いスタッフたちが頼りない私を突き上げ、次々と新しいアイディアを提起してくれるおかげで、ジェーアイシー旅行センター(株)は年を追う毎にしつかりした会社で成長することができた。つくづく良い仲間恵まれたと思う。JIC 国際親善交流センターとジェーアイシー旅行センター(株)を支えてくれている全ての同僚、仲間たちに感謝したい。

最後に、ほとんど「家庭崩壊」に等しいほど家族を顧みることなく仕事だけに専心してきた私の好き勝手とつきあってきてくれた、妻と二人の娘に「ごめんなさい」とともに、感謝の言葉を送りたい。

* * * * *

今、上田卓三さんが生きていたら、私としては報告したいこと、聞いてほしいことが山ほどある。「JIC は生き延びて、ここまで大きくなりました」、「会長が何度も作りたがっていたモスクワ事務所をとうとう開きました」、「日本人もたくさんロシアに行くようになりましたが、ロシア人観光客もどんどん日本に来るようになってるんですよ」、「トヨタのロシア進出で、日ロの経済関係はガラリと変わりましたよ」、「日ロ平和条約交渉がぐっと進むような、何か面白いことやしましょうや!」。…。

しかし、それを言う相手はもういない。上田さんにもう少し長く生きていてほしかった。心からそう思う。(09 年 3 月 10 日記)

上田卓三会長の略歴



- 1938 年 6 月 24 日 大阪市に生まれる。
- 1958 年 3 月 大阪市立扇町第二商業高校卒業
- 1958 年 9 月 部落解放同盟大阪府連・書記
- 1973 年 3 月 部落解放同盟大阪府連合会・委員長
- 1973 年 8 月 大阪府中小企業連合会(略称;中企連)設立、会長に就任。
- 1974 年 7 月 参議院選挙・大阪地方区に社会党から出馬、惜敗
- 1976 年 12 月 衆議院選挙(大阪四区)で初当選、内閣委員会に所属
- 1979 年 12 月 日本モンゴル親善協会大阪支部を結成。
- 1980 年 2 月 日本社会党国際部長に就任
- 1980 年 7 月 モスクワオリンピック観戦団(300 名)派遣、ソ連対文連(SODD)と交流開始
- 1982 年 10 月 部落解放同盟中央本部・副委員長
- 1982 年 12 月 国際親善交流センター(JIC)を設立、会長に就任
- 1982 年 12 月 衆議院大蔵委員会・委員
- 1982 年 12 月 国際軍縮促進議員連盟・常任理事
- 1985 年 8 月 日本モンゴル円卓会議(日本モンゴル親善協会、日本対文協と JIC の三者共催/東京)
- 1986 年 10 月 日中友好の旅(60 名)、中華全国総工会と交流開始
- 1986 年 12 月 米黒人運動指導者ジェシー・ジャクソン師を招聘。東京・大阪で講演会開催。
- 1987 年 10 月 ウラジオストク訪問、ロシア最高会議との交流開始
- 1989 年 10 月 ペレストロイカ・シンポジウム(東京)
- 1990 年 2 月 反アパルトヘイト議員連盟・副会長
- 1990 年 7 月 中企連・台湾訪問団(150 名)、民主進歩党と交流
- 1992 年 2 月 大相撲(大島部屋)のモンゴル力士招聘に協力
- 1993 年 5 月 日本ロシア協会・副会長
- 1993 年 7 月 衆議院議員を引退
- 1996 年 9 月 部落解放同盟中央本部・委員長
- 1999 年 6 月 アメリカ・ハーレム商工会議所はじめマイノリティ団体と交流開始
- 2000 年 12 月 杉原千畝生誕 100 年記念事業を東京、大阪で開催
- 2002 年 3 月 税制改革国民フォーラムを結成
- 2005 年 5 月 26 日 永眠(67 歳)

札幌大学ロシア語学科

ロシア政府認定 ロシア語検定試験



試験日:2009 年 11 月 7 日(土)8 日(日)

場所:札幌大学キャンパス内

願書受付期間:9 月 1 日(火)~10 月 16 日(金)必着

受験料:未定(ロシアの試験本部より通達があり次第決定)

「ロシア語検定試験(TPKH)」はロシア政府公認、全世界で行われている検定試験です。願書は、札幌大学ロシア語学科 HP(<http://www.sapporo-u.ac.jp/gaigo/>)からダウンロード、または下記問合せ先にご請求下さい。

<お申込・お問合せ>

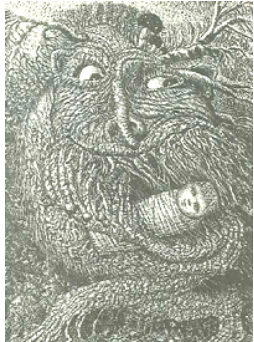
〒062-8520 札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目 3 番 1 号
札幌大学学生支援オフィス外国語学部
TEL:011-852-1181 丹野、藤本、鈴木

◆書籍紹介◆

「むこうの」世界の「むこうの」国

佐野 洋子

私が精霊の世界に興味を抱いたのは、ロシア文学がきっかけだった。周知のものとして一切の説明もされずに度々顔を出すこれらの人物は、一体何者なのだろう、こんな素朴な疑問から私の研究はスタートした。このテーマに関する邦語文献はほぼ皆無だったが、露語文献にあたれば即明確な解答が得られるはずだ、という私の期待は見事に破られた。個々の専門分野からだけ捉えた研究のみで、総合的に多角的に捉えられたモノグラフなどなかったからだ。ゼロからのスタートだった。



〈精霊 レーシイ〉

農民の精霊との出会いを語った体験談が直接の資料となるのだが、その一瞬の感情を吐露させた長い精霊の歴史背景を知らねば、体験談の意味は全く分からないのだ。それに言語の壁。片っ端から辞典を調べても、フォークロア専門のロシア人教授に尋ねても不明なものが多々あった。そして人々の習慣や精霊の為す行為。なぜ神を葬る儀式が頻繁に行われるのか？葬式後なぜ笑うのか？葬式の際、なぜ拳闘を行うのか？なぜ仮装し、服を裏返し、儀式的破壊行為をするのか？占いの時なぜ帯を外し、描いた輪が身を守るのか？編んだ白樺をほどくのは？娘同士が契って絶交するのは？・・・私の頭は？マークで一杯になった。すべてはこの「なぜ？」から始まり、この謎解きで終わった気がする。

ありがちな体験談の羅列、つまりフォークロアの一ジャンルからだけでは何も解明されず、信仰の根拠、精霊の起源を探るには、民族学は勿論、考古・歴史学、文学、芸術等々の多角的視野から取り組み、それを総合して見ていく必要があった。可能な限り多くの文献を読み漁ると同時に、精霊を創造した人々の立場に思いを馳せ、人間本来の本能に頼ることで多くの謎の答を導き出せたと思う。

人々は命を繋げていくために生きている。生から死へ廻り続ける命の輪を押すために、死者も生者も一丸となる。死者は農民の言う裏返しの世界、つまりは自然界から生者を助ける。あらゆる命が栄え続けることが人類共通の願いであり、その手本となるのが自然である。自然の生命力を借りようと、人々は太陽・雷の印を、ミルク＝雨をもたらす女性の乳房を小屋に彫り連ねた。自然界の豊かさを真似て、毛皮が外側にくるようコートを裏返し、仮装し、自然と契り、その力にあやかろうとした。そして自然への願い、祈り、信仰から、儀礼、神話が生まれた。精霊たちは、人々を取り囲むこの世、自然界そのもの、その化身だったのである。悪霊、妖怪、不浄な

る力等の呼び方は、キリスト教が自らの布教のため、異教の神々に与えた名にすぎない。

しかし神々といっても、彼らは近づき難い畏れ多い存在ではなく、人間味溢れる個性豊かな人物揃いである。この精霊たちの温かい性格付けにこそ、ロシア人の民族性が顕著に表れていると思う。図体だけがでかく、善良で心優しい純朴な紳士レーシイも、太鼓腹の酔っ払い爺さんヴォヂャノイも、必死に家計を守りせかせかと働き続ける頑固爺さんのドモヴォイも...皆それぞれに私は愛着を感じる。人間に潜む卑しさが一切感じられない誇り高き精霊たちの中で、皆さんは誰に一番心を惹かれるだろうか。この精霊の世界に触れて、ロシアの精神文化、ロシア文学により興味を増していただけたら、大変うれしく思う。

『ロシアの神話 自然に息づく精霊たち』

佐野洋子著 三弥井書店

定価:9,800 円＋税



森の管理人「レーシイ」、水の主「ヴォヂャノイ」、家に棲みつく「ドモヴォイ」といったロシアの精霊たちは、古くから親しまれている日本の妖怪たちを思い起こさせる。異教の者としての不当な蔑まれ方を嫌って本書の中では「妖怪」という呼び名は使われていないのだが、あえて日本の妖怪を引き合いに出させていただくと、そこに住み、そこを守り、時には悪さをし、また、時には恩恵を与えてくれる存在である点、現代人の日常においてさえ、その名が呼ばれる際には一種の畏怖を感じつつもユニークなキャラクターを持つ身近な存在として捉えられている点が、河童や座敷童子に代表される日本の妖怪たちとどこか似ているように思われる。

出版社ホームページ上で紹介されているように「時空を超えて精霊たちを創造したロシア民族の自然観・世界観・精神文化を歴史、民族、文学、芸術、建築、考古学などの広いジャンルから解明する」試みを形にしたこの本は、丁寧な研究の成果であり、著者の真面目な探究心と研究対象に対する真摯な愛情があふれた一冊に仕上がっている。

ロシアの精霊たちの姿、好き嫌い、彼らとの遭遇ポイント等生態について知ることができるだけでなく、「スラヴ世界の中の大ロシア」の人々の精神世界に触れることもできる。第七章ではロシアの「農民の一年」を紹介しており、昔ながらの祝祭日やそれにまつわる風習についての記述も詳しい。図版が多いのもうれしい。

専門書らしく安価ではないが、値段が高くて買えないという方は、資料としての価値が高いので地元の図書館に購入依頼を出してはいかがだろう。

(曾根 直子)

ロシア・旧ソ連製旅客機を訪ねて

～第4回 ツポレフTu-134～

鈴木 一・平井 伸彦



今回は再びツポレフの旅客機、ツポレフ Tu-134 を紹介させて頂きたいと思う。1965 年(1962 年説もある)に開発された双発の旅客機で、爆撃機の Tu-16 をベースにした最後の旅客機である。機首部分にナビゲーター席などが設けられていることから、軍用機を本流に持つ機体であることが分かる。1984 年に生産停止になるまで、Tu-154 と同じく 1000 機近くが生産された。ソ連以外では、東欧圏や北朝鮮の航空会社にも導入実績がある。座席数は 70 席程度で、現在日本の航空会社が導入を進めている旅客機とサイズが同じであり、時代が時代ならこの機体も売れた可能性がある。生産停止から 20 年以上が経過して、機体が老朽化しており、現在は置換えが進んでいる。

～第 4 回 ツポレフ Tu-134A-3

2008 年 10 月 15 日 タタールスタン航空 U9-364 便
カザン→モスクワ・ドモジドボ空港

空港内のレストランで昼食を済ませ、食後は空港内や周辺をうろうろする。市内に出るには時間がないのだが、ここカザンには世界遺産「カザンのクレムリン」があったので、もっとゆったりしたスケジュールにしても良かったかもしれない。

チェックインが始まったのを確認してセキュリティチェックを通過。この空港は旧ソ連方式で、チェックインの前にセキュリティチェックを通過するタイプになっている。

カウンターで搭乗券を受け取ると、10C と 10D が返って来た。現時点でカザンの空港に居るタタールスタン航空の機体は、Tu-134 が 1 機と Tu-154 が 2 機、Yak-42 が 2 機。Yak-42 の 2 機はエンジンに蓋をできてしまっていたので、可能性は低い。多分この席番からすると、Tu-134 に乗れることになる。ここまでで 4 機種種の旧ソ連製に乗ったことになり、あと 1 機種乗れば文句はない。



<特徴は丸窓にカーテン>

搭乗が始まると、やはり Tu-134 に誘導された。RA-65065 の登録の機体で、1977 年製造の 31 歳。飛行機としての耐用年数は間もなく終了しそうな機体ではある。トラップを上がって機内に入

<ツポレフ Tu-134 の機体>



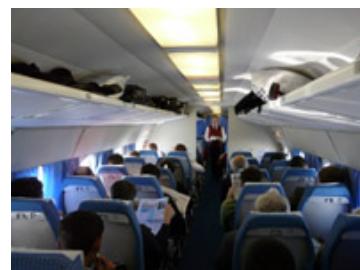
ると、客室乗務員の方はアジア系の顔つきであった。やはりここがタタールスタン共和国という自治共和国であることが感じられる。

指定された席につくと、丸窓にカーテンという Tu-134 の最も特徴的な部分が目立つ。Yak-42 や Yak-40 も丸窓なのだが、カーテンがついているのは Tu-134 だけである。往路と同じく、タタール語、ロシア語、英語の順で機内アナウンスが入った。

空港内をタキシングして滑走路へと向かう。往路は着陸後に、カザン空港に放置されている機体が多数見られたが、さすがに今度は滑走中にちらりと見えるだけ。もう二度と空を飛ぶことのない機体たち、次に私がカザンに来ても、もう置かれていないだろう。

カザンを離陸すると、順調に高度を上げて巡航に入った。恐らく 10000m くらいまでは上がれるように作ってあるらしい。もちろん設計が古いので、シートベルトサインがオフになっても、チャイムでは知らせてくれない。

機内サービスは往路と同じく、ウェルカムドリンク、続いてお菓子とコーヒーのサービス。お菓子はビスケットのようなものか、往路と同じチョコレートとのことだったので、ビスケットをもらう。サービスカートになぜか「Corsairfly」のロゴがあり、どうもフランスのコルスエールの



<機内の様子>

中古品を買ったのではないかと思います。ちなみにカートは後方のギャレーにそのまま置かれており、固定されてなかったようだ。日本とは違い、このあたりの意識の違いもロシアならではだろう。ちなみに、この飛行機も頭上の物入れに蓋がつ



<トイレにも明かり取りの窓>

いていないのだが、やはり荷物はそのまま載せられている。乱気流に巻き込まれたら全部飛んでしまいそうだが、あくまで自己責任ということか。

Tu-134 はトイレとギャレーにも丸窓があり、トイレもライトだけでなく、自然光も入るように作られている。こういう窓の配置はかなり珍しい。

座席配置は 2-2 で、今時流行しているリージョナルジェットと同じだが、思ったより横幅があり、シートピッチもゆったり目に配置して 70 席強になっている。話によると、アメリカ・ダグラス社の設計した DC-9 と同等の胴体とのことで、そうなると横 1 列少ないことになるので、その分ゆったりしているとも言えよう。現在、このサイズの機体の主流になっているボンバルディア社の機材「CRJ」よりも快適性は圧倒的に上で、西側の騒音規制に適合する新型のエンジンに積み替えたら、意外に今でも売れるかもしれない。旧ソ連機も、時代が時代なら売っていた可能性すらある。

1 時間 10 分ほどのフライトはあっという間に終了し、すでにモスクワ上空にさしかかっている。モスクワ市内を右手に望みながら右旋回し、左側の滑走路に南側から着陸。今回 4 度目のドモジドヴォ空港への着陸である。

ドモジドヴォ空港では一番手前のゲートに到着。この機体は 1 時間ほどドモジドヴォ空港に滞在した後、再びカザンへと戻って行くようだ。カザンへの出発を見送ることにして、飛行機の見られる出発ロビーへと移動。1 時間ほどで、Tu-134 は再びカザンへ向かうために動き出した。見送りを終えると、空港奥に留め置かれていたウラル航空の IL-86 がターミナルに向かって牽引されてくるのが見えた。

< 続 >

<ツポレフ Tu-134>

1965 年(62 年?) に開発された短距離路線向けの小型ジェット旅客機。乗客定員は 70 名程度で、主に需要の少ない路線や、旧ソ連の地方都市から欧州への路線などで活躍した。また、チェコやポーランド、ハンガリー、北朝鮮、ベトナムなどの航空会社でも使用された実績がある。西側の騒音規制に適合しないため、日本への飛来はできないが、現在もロシアや旧ソ連の航空会社の、CIS 域内路線を中心に使用されている。最終生産機が 25 年前と言うこともあり、現在はボーイング 737 やボンバルディア(カナダ)、エンブラエル(ブラジル)製の旅客機に置き換えられつつある。

◆ミニミニインタビュー◆

Q.展示物は、どうやって集めたのですか？

A.先代の館長が、80 年代に幼児教育の面からソ連との交流活動に力を注いでいたのです。活動自体はソ連崩壊時の混乱により続けられなくなってしまいましたが、長年の交流を通じて、かなりの量のおもちゃや人形が集まりました。日本では大変珍しいコレクションです。

Q.今回改めて展示企画をされた理由は？

A.日本国内でマトリョーシカの認知度が急上昇していますね。近年「キモカワイイ」という言葉に代表されるような、なんとなく気持ち悪かったり、だらしのない面を持ったキャラクターが人気になっていましたが、そろそろその方向性にも飽きが来て、素朴なかわいらしさが求められる時代になってきたのではないかと思います。中野から四谷に移転してちょうど一年、当館の根幹ともいえるコレクションをお披露目するのに良い機会と考えました。

東京おもちゃ美術館にて

ロシアのおもちゃ展開催中！

“かわいいもの”がお好きな皆さま！
マトリョーシカに会うとなぜだか嬉しくなっちゃう皆さま！

東京・四谷のおもちゃ美術館で、この 4 月から 1 年間、ロシアのおもちゃ & マトリョーシカ展が行われています。日本にいながらにして、ロシア製の大きなものから、なんとインドのものまで、何体もの可愛いマトリョーシカ達に会うことができます。”おもちゃこうぼう“の手作りイベントでは、土日を中心に、マトリョーシカの絵付け体験やポーチ作りを開催中。また、ロシア絵本の読み聞かせイベントや、秋にはマトリョーミン(マトリョーシカ型のテルミン)のコンサートも企画されています。



【東京おもちゃ美術館】 最寄り駅：東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」

開館時間：10:00～16:00(入場は 15:30 まで) 休館日：木曜日

入館料：小学生以下 500 円(2歳以下無料) 中学生以上 700 円

(大人と子供ペア券・団体割引あり)

URL: <http://www.goodtoy.org/ttm/>



ワガノワ・バレエ・アカデミーの歴史

〜ワガノワ・バレエ・アカデミー副校長 タチアナ・ゴロヴィナさんの講演より〜

浦林 裕理

すでにかかなり前のことになってしまいましたが、2008 年夏にワガノワ・バレエ・アカデミーが来日公演を行った際、アカデミー副校長先生であるタチアナ・ゴロヴィナさんが 7 月 16 日に新宿文化センターで、バレエの歴史をテーマに講演会を行いました。講演自体は、ダンスの発祥から現代までを網羅する約 2 時間の充実したもので、とても全てをお伝えすることは出来ないため、一般的なバレエ史の本ではあまり取り上げられないワガノワ・バレエ・アカデミーの歴史に関する部分に絞ってご紹介しようと思います。



■帝室バレエ学校としての発展

ワガノワ・バレエ・アカデミーは、270 年の歴史を持ちますが、1738 年 5 月 4 日に帝室バレエ学校として女帝アンナ・イヴァノヴナの命により設立されました。初代バレエマスターはジャン・バティスト・ランデで、彼の教え子がロシア・バレエの栄光を築いていくことになります。その後長らく、ヨーロッパから優れたバレエマスター/教師をロシアに招くことで発展を遂げてきたのですが、イタリア人ガスパロ・アンジェリーニとジュゼッペ・カンツィアーニの元で、ロシア人初のバレエマスター/教師となるイワン・ヴァーリベリヒが登場しました。

そして既にヨーロッパで名声を得ていたシャルル・デイドロは、その後半生をロシア・バレエと帝室バレエ学校に捧げます。ギリシャ神話やロシア史に想を得た独自のレパートリーを整え、舞台芸術としての舞踊スタイルを確立したのです。ヴァーリベリヒの教え子、エフゲーニヤ・コロソワは、デイドロ



が育てたアウドーチヤ・イストミナ(プーシキンの『エフゲーニ・オネーギン』にもその名が登場します)と並び、伝説的な名手となっています。

ちなみに、後世のロシア・バレエに大きな影響を与えたのがロマンティズムで、1830 年代のペテルブルクにマリー・タリオーニが現れてから、帝室バレエ学校はタリオーニ・スタイルの習得を基本方針とするようになりました。

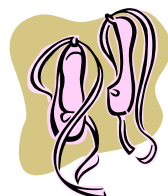
■マリウス・プティパとバレエ・リュス

19 世紀後半のペテルブルクのバレエの発展と切り離せないのが、マリウス・プティパです。彼は 1847 年の渡露後、60 年以上バレエマスター/教師として、クラシック舞踊というバ

レエ芸術の方向性を決定づけたのです。この偉大なバレエマスターは独自の演出を数多く行くと共に、過去の作品もまたレパートリーに残し、更に豊かなものにしていきました。彼によって、舞踊スタイルの完成、群舞に至るまで調和に満ちた舞台芸術という高みへと到達したということが出来るでしょう。

一方、プティパのバレエにダンサーを供給するため、帝室バレエ学校で学問としてのダンスを教授したのは彼の盟友である、クリスチャン・ヨハンソン、エカテリーナ・ヴァーゼム、レフ・イワーノフ、エンリコ・チェクETTI、ニコライ・レガートです。彼らのもとで、イタリアの名手にひけを取らないダンサー達が一世代を築きました。例えば、マチルダ・クシェシンスカヤ、オリガ・プレオブラジェンスカヤは見事なテクニックを持っていましたが、観客を魅了したのはむしろ感情表現や解釈の行き届いた踊りだったのです。

それとほぼ同時に、後にバレエの革新者となるミハイル・フォーキン、アレクサンドル・ゴールスキーが、帝室バレエ学校に現れました。フォーキンは、バレエ・リュスの公演で作品を披露すると、あっという間に世界的な名声を得ますが、それ以外にも、アンナ・パブロワ、ワツラフ・ニジンスキー、タマラ・カルサーヴィナ、オリガ・スペシフツォワなど、数多くの才能がただ一つのバレエ学校から誕生したということになります。そして、この時からあらゆる国のバレエ愛好家がロシア・バレエを志向するようになり、世界中にバレエ教室が開かれ、マリインスキー劇場の元ダンサーが指導にあたったのです。この流れがアメリカにも波及したのは 1921 年にバレエ学校を卒業した、ゲオルギー・バランチヴァーゼによるところが大きく、彼はジョージ・バランシンという名の偉大な振付家として、ニューヨークにバレエ学校とカンパニーを創設したのです。



■ロシア革命と第 2 次世界大戦

ロシア革命が 1917 年に起こって以降、多くのバレエ・ダンサーや教師が国外への移住を迫られましたが、幸いロシア・バレエを根底から揺るがすことにはなりません。バレエ学校(ソ連時代は「レニングラード舞踊学校」と名を変えていました)の発展に大きく貢献したのがアグリッピナ・ワガノワです。彼女は過去のバレエ教師達の経験の蓄積に、独自の探求の成果を加え、クラシック・バレエのシステムティックな教授法を完成させました。この理論を更に補強し、1934 年に出版されたのが『クラシック・バレエの基礎』で、これが最初のバレエ教本となるのです。

1920 年代から 1951 年まで、マリーナ・セミョーノワ、ガリーナ・ウラノワ、タチヤナ・ヴェチェスロワ、ナタリア・ドゥジンスカヤ、アラ・シェレストなど、彼女は数世代に渡るバレエ・ダンサーを育て上げました。1957 年、バレエ学校は、彼女の名

前を冠し、ワガノワ・メソッドをアーティスト育成の全てのプログラムの基礎に据えることとしたのも、必然と言えるでしょう。

ワガノワと肩を並べて男子舞踊手の育成に尽力したのがウラジーミル・ポノマリョフで、アレクセイ・エルモラエフ、コンスタンチン・セルゲイエフ、ワフタング・チャブキアーニ、ニコライ・ズブコフスキーを育てました。また、ワガノワと共に上級学年の女の子を長年指導したのが、マリア・ロマノワです。



バレエ学校史における、大きな試練は大祖国戦争(独ソ戦。1941 年～1945 年)であったと言えるでしょう。上級生や卒業したての若者は前線に送られ、その中には、後にソリストとなるコンスタンチン・シャチロフもありました。また、若きバレリーナ、ノンナ・ヤストレボワのように前線の旅団に送られた者もあります。バレエ学校自体はウラルに疎開したキーロフ・バレエ(マリインスキー・バレエのソ連時代の名称)とともに、ペルミで活動을続けました。この疎開した 3 年間の芸術監督を務めたニコライ・イワノフスキーは、教授陣と共に、学校の存続のために最善をつくしました。レニングラード包囲戦(1941 年 9 月～1944 年 1 月)においても授業は続けられ、生徒の採用試験までも行われていたのです。学校がロッシ通りに戻ってきたのは 1944 年 6 月のことで、そして 9 月 1 日に 206 回目の新学年度を迎えたのです。

■ソビエト・バレエの栄光

戦後数年間、多くの才能あるダンサーが誕生しました。ワガノワの教え子であるオリガ・モイセーエワ、ニネリ・クルガブキナ、アラ・オシペンコ、イリーナ・コルパコワ、そしてポノマリョフの教え子であるボリス・ブレクバーゼなどです。また、ワガノワとポノマリョフにより、バレエの教授法に惹きつけられた者もありました。そして 1950 年代から 1970 年代にかけて、レニングラード舞踊学校は巨匠とも言うべきスターを輩出したのです。ルドルフ・ヌレエフ、ユーリ・ソロヴィヨフ、ナタリア・マカロワ、ミハイル・バリシニコフ、ガリーナ・メゼンツェワ、



アルティナイ・アスィルムラートワ、ファルフ・ルジマトフなど…。かつての帝室バレエ学校は、優れたダンサーを輩出したばかりではありません。レオニード・ヤコブソン、レオニード・ラブロフスキー、

ワフタング・チャブキアーニ、コンスタンチン・セルゲイエフ、ワシリー・ワイノーネン、ユーリ・グリゴローヴィッチ、ニコライ・ボヤルチコフ、オレグ・ヴィノグラードフなど 20 世紀を代表する、ソビエト・バレエの振付家の多くも、このバレエ学校から誕生したのです。

プロのダンサーの育成は、プロのバレエ団を根拠地にした舞台経験があって初めて可能になりますが、歴史的にも、ワガノワ・バレエ学校にとってマリインスキー劇場がパートナ

ーであることは、既に伝統になっています。毎年の発表会や卒業公演、私たちの伝統的なレパートリーのワイノーネン版『くるみ割り人形』がマリインスキー劇場で上演されていますし、また劇場公演に生徒が参加することは、教育プログラムの一部となっています。世界に名高いマリインスキー・バレエの群舞の美しさは、マリインスキー・バレエの団員の 95%以上がワガノワ・バレエ・アカデミーの出身という事実があればこそでしょう。

■現在のワガノワ・バレエ・アカデミー

今日のワガノワ・バレエ・アカデミーが変わらず掲げている使命は、ロシア及び世界の劇場の手本となるべきダンサーを鍛え上げることです。近年の卒業者としては、ウリヤナ・ロパートキナ、ディアナ・ヴィシニョワ、エフゲーニヤ・オブラスツォワ、ヴィクトリア・テリョーシキナ、アリーナ・ソモワ、アンドリアン・ファジェーエフ、ウラジーミル・シクリャーロフなどですが、彼らは 21 世紀のスターといってもいいでしょう。

1991 年、アカデミーは高等教育として認められ、また大統領令によってロシアの文化遺産となっています。現在アカデ



ミーでは、高度な資格を持つ教授・教師が働いていますが、2004 年には校長としてヴェラ・ドロフフェーエワ教授を迎えました。また、2000 年からは、ロシア人民芸術家のアルティナイ・アスィルムラ

ートワが芸術監督を務めています。

かけがえのない歴史を持ち、ここでしか守り継ぐことのできないクラシック・バレエの傑作に格別の注意を払っていることは、アカデミーの特性となっています。アカデミーの課題は、これらの宝が失われないよう、未来のダンサーに伝えていくことですが、同時に、生徒が卒業にあたり職業が得られるようにしなければいけません。そのためにはあらゆるダンスを習得していなければいけませんから、今日のダンス事情に応じ、プログラムを見直していくことも求められているのです。

< 終 >

JIC がお届けするロシアの芸術・エンターテインメント情報が盛りだくさん。ぜひご覧ください！



<http://www.jic-web.co.jp/pa/index.html>

JICは頑張る人を応援します！

旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方は JIC までご相談ください。イベント時期の約 2 ヶ月前に情報をお送りください。JIC インフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11 月の 6 回となります。

掲載内容が JIC の活動に合わない場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

ロシア文化フェスティバル 2009 IN JAPAN --PROGRAM--

2009 年もプログラムが続々発表されています！

(1) オープニング 銀座大ロシアまつり 6 月 22 日(月)~28 日(日)

オープニング・セレモニー&パーティー 6 月 22 日(月)午後 2 時~4 時 帝国ホテル

東京メトロ銀座駅 B2 エリア・イベント 6 月 25 日(木)~28 日(日) 展示&パフォーマンス 出演=ルースカヤ・ヤルマルカ、チェブラシカぬいぐるみ人形、ボリショイミニサーカス、人形劇団ほか

オシポフ国立民族楽器オーケストラアンサンブル 6 月 22 日(月)午後 7 時 会場=銀座ブロッサム(中央会館)

モスクワこども人形劇場 6 月 25 日(木)~28 日(日) 会場=銀座博品館劇場

ロシア・アニメーション映画フェスティバル 6 月 27 日(土)28 日(日) 会場=浜離宮朝日小ホール

ロシア民族工芸美術展 6 月 23 日(火)~27 日(土) 会場=ユニグラパス銀座館

ロシア文化人講演会=エドゥアルド・ウスペンスキー 6 月 24 日(水) 会場=教文館ウェンライトホール

オリガ・アンドリュシェンコ・ピアノコンサート 6 月 22 日(月)午後 7 時 会=王子ホール

ボリショイ舞台サーカス 6 月 26 日(金)・28 日(日) 会場=時事通信ホール

ロシア物産・民芸・観光展 6 月 22 日(月)~28 日(日) 会場=銀座松坂屋 3F 催事場 イベント=3F、7F 屋上

アレクサンドル・パノフ元在日ロシア大使のみた日本写真展 6 月 20 日(土)~25 日(木) 銀座洋協ホール

ルースカヤ・ヤルマルカ(ロシア民謡アンサンブル) 6 月 23 日(火) 会場=十字屋ホール

(2) オシポフ民族楽器オーケストラアンサンブル 6 月 22 日(月)銀座ブロッサム、23 日(火)神奈川県民小ホール、24 日(水)千葉京葉銀行文化プラザ、25 日(木)埼玉芸術劇場音楽ホール

(3) ロシア文化人講演会=人気アニメ「チェブラシカ」原作者エドゥアルド・ウスペンスキー氏 6 月 23 日(火)早稲田大学、24 日(水)教文館ホール、27 日(土)松坂屋 ほか

(4) オリガ・アンドリュシェンコ・ピアノコンサート 6 月 22 日(月)王子ホール ほか

(5) ボリショイ舞台サーカス 6 月 23 日(火)創価学園予定、24 日(水)26 日(金)時事通信ホール、27 日(土)松坂屋、28 日(日)時事通信ホール

(6) ルースカヤ・ヤルマルカ・ロシア民謡アンサンブル 6 月 23 日(火)十字屋ホール ほか各地

(7) ボリショイオペラ

6 月 17 日(水)~7 月 3 日(金)

(8) ユーリー・ノルシュ

ティン「外套」への軌跡」展 (東京)9 月 9 日(水)~11 月 15 日(日)

(9) プレトニョフ指揮ロシアナショナル管弦楽団 6 月 30 日(火)~7 月 15 日(水)

(10) モスクワ放送交響楽団 5 月 20 日(水)~6 月 8 日(月)

(11) ロシア・サーカス(ボリショイサーカス) 7 月 18 日(火)~10 月 東京体育館ほか

(12) ゴーゴリ生誕記念ロシア名画フェスティバル 7 月 18 日(土)19 日(日) 上映作品=「ヴィイ」「検察官」「外套」

(13) 白夜映画祭 ボリス・バルネット特集 6 月下高井戸シネマ

(14) ロシア語フェスティバル 講演会・詩の朗読・ロシア語セミナー・留学フォーラム・パフォーマンス・コンクール

(15) モスクワアカデミー合唱団 5 月 20 日(水)~6 月 8 日(月)

(16) マリンスキー・バレエ 11 月 15 日(日)~12 月 15 日(火)

(17) 忘れえぬロシア・トレチャコフ美術館展 4 月 4 日(土)~6 月 7 日(日)東京 ほか

(18) 国立サンクトペテルブルグアカデミーバレエ 10 月 20 日(火)~11 月 20 日(金) 各地

(19) ロシア天才少年少女のコンサート 9 月 20 日(日)~

(20) マスタークラス(バレエ、音楽、民芸品) 6~7 月

(21) A.ソクーロフ「チェチェンへ。アレクサンドラの旅」上映 地方各地

(22) 新作アニメ映画「チェブラーシカ」3 部作 公開ロードショー 12 月 全国各地

(23) ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団 11 月 16 日(月)~12 月 10 日(木)

(24) ロシア国立モスクワアカデミー合唱団 11 月 20 日(金)~12 月 20 日(日)

(25) エルミタージュ展

(26) アンドレイ・コロペニコフ

(27) タチアナ・ヴァシリエヴァ

(28) イリーナ・メジューエワ・ピアノリサイタル 10 月 2 日(金)

(上記は予定です。変更になる可能性があります。ご注意ください。)

今年も、ロシア関係の
イベントが盛りだくさん！



この夏オススメ! JIC のロシア語研修

夏の短期ロシア語研修旅行 サンクトペテルブルグロシア語研修 & ホームステイ ロシア人と仲良くなろう!

受入機関: デルジャーヴィン・インスティテュート

成田・関空発

9 月 1 日 (火) ~ 16 日 (水) 全 16 日間

成田発: 288,000 円

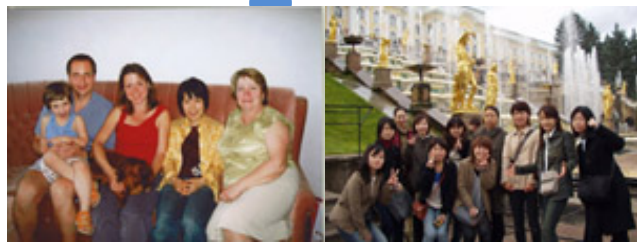
関空発: 298,000 円

申込締切 7 月 31 日 (金)

旅行企画実施: ジェーアイシー旅行センター(株)

最少催行人数: 6 名 添乗員: なし

ビザ代、取得代行手数料、空港諸税、燃油サーチャージが別途必要となります。



ロシア長期留学 2010 年 4 月生も募集中です!

JIC モスクワ通信 Vol.16

「オスタンキノ・テレビタワー」ツアー

皆さんはモスクワにある観光地の一つ、オスタンキノ・テレビタワーをご存知ですか?もしかしたら、皆さんは 2000 年にタワーで火災が起きたことを覚えていらっしゃるかもしれません。その火災で 3 人死者が出て、タワーは再建のため閉鎖されました。しかし、今年 4 月から、再オープンになっています。オスタンキノ・タワー (540m) は 1967 年に建てられ、1976 年にカナダのトロントで CN タワー (553m) が建てられるまで、世界で最も高いビルでした。現在は、CN タワーとアラブ首長国連邦・ドバイ市のブルジュ・ドバイに次いで第 3 位の高さです。そのタワーではどのようなツアーが行われているのでしょうか?

火災以降セキュリティは厳しくなり、タワーを観光するには事前に名簿を届け出る必要があります。ツアーの長さは 1 時間です。まずタワーの 1 階で 30 分ほどガイドの説明を聞きます。展示されているのは、スチール製ケーブルの一部や、1992 年までタワーに掲げられていたソビエト連邦の国旗な

ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2 週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立された学校で、18 世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1 週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



ロシア語個人研修 (随時募集)

★モスクワ・ダリパス社 1 週間~4 週間 (ホームステイ 2or3 食付)

★モスクワ大学 3 週間~長期 (大学寮 1 人部屋)

★G & R インターナショナル 1 週間~長期

(ホームステイ 2 食付/大学寮 2 人部屋)

★ペテルブルグ・パートナー社 (ホームステイ 2 食付)

★ペテルブルグ大学 1 ヶ月~長期

(大学寮 1 人部屋/2 人部屋)

★ウラジオストク極東大学 1 週間~長期 (大学寮 1 人部屋)

★ウラジオストク極東大学 1 週間~1 ヶ月 (ホームステイ 2 食付)

★ビジット生活体験コース (ホームステイ 3 食付)

どです。1992 年以降、タワーは政治とは無関係なので、ロシアの国旗はかかっています。また、このタワーはもとより、モスクワ大学の本館やルージニキ・スタジアムのエンジニアとしても有名なであるニコライ・ニキーチンについて説明がなされます。説明の後、348 メートルの高さにある展望台まで高速エレベーターで上がります。ロシア国内で最も高い展望台です。モスクワのすばらしい景色は展望台の窓からだけでなく、ガラスの床からも見られます。とても怖そうですが、床は 7 トンの重さに耐える硬いガラスでできています。展望台での自由時間は約 30 分です。晴れていれば、望遠鏡で遠くにあるクレムリンなどを見することもできます。以前オスタ



ンキノ・タワーには、第 7 天国というレストランがありました。残念ながらそのレストランはまだ閉鎖されていますが、将来再オープンする見込みです。皆さんもモスクワ市街を眺めながら食事を召しあがってみてください。

(モスクワ トカチェンコ・ドミトリー)

6～9月の予定



6月 6日(土) JIC 東京・大阪 留学相談会

6月15日(月) 9月出発ロシア長期留学生 募集締切!

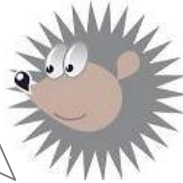
8月上旬 9月出発ロシア長期留学生 事前説明会

9月上旬 9月出発ロシア長期留学生 出発!

最新情報、追加情報はホームページでご紹介しています♪
お問合せはお気軽にどうぞ!

JICのホームページを
チェックしよう!

<http://www.jic-web.co.jp>



JICのロシア語講座 途中入講可能!!

東京

TEL: 03-3355-7295 jictokyo@jic-web.co.jp

受講料: 前期 全 17 回 51,000 円

会場: 国際親善交流センター東京オフィス(東京・四谷)

クラス: 入門(月)、初級(火)、中級(水)、文学講読(木)

時事会話(金)、使える会話①(土)

時間: 月～金 19:00-20:30、土 10:45-12:15

大阪

TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

受講料: 前期 全 15 回 35,000 円

会場: 国際親善交流センター大阪オフィス(大阪・天満橋)

クラス: 入門(火)、初級(木)、中級(金)、上級(月)

時間: 19:00-20:30

ご希望の方は、お気軽にお問合せください!!

ロシア留学旅行相談(東京・大阪各事務所)

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に
応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 土曜 10-16 時

大阪事務所 平日 10-18 時 土曜(6-9月のみ) 10-16 時

第14回 ロシアンフェスタ報告



第 14 回 JIC ロシアンフェスタが、5 月 16 日(土)、東京の在日ロシア連邦大使館内で、ロシア外務省付属ロシア連邦協力庁、在日ロシア大使館付属学校との共催で、300 名以上の皆さんが集い、盛大に開催することができました。大使館付属学校講堂でのステージでは、日本側から関東国際高校、アンサンブルつるぎ、東京外国語大学ロシア民謡研究会(ルムーク)、歌唱集団パリャーノチカ、創価大学ロシア研究会、EURO BRASS BANDA の皆さんによる歌、踊り、演奏が披露されました。また大使館付属学校の生徒さんたちの、歌と踊りの見事な演技に、観客の皆さんは魅了されました。ステージ終了後は、付属学校の教室を使っの交流パーティーとなりました。今年も、六本木のロシアレストラン「バイカル」さんが焼き上げた本場のピロシキが用意されました。大使館ご提供のウォッカも大人気でした。会場のあちこちで、日本の皆さんとロシアの皆さんの語らいの輪が楽しく広がっていました。JIC の旅行・留学の相談コーナーも大盛況でした。ご出演の皆様、お手伝い下さった方々、本当にありがとうございました。(JIC 東京 神保 泰興)

◆◆編集後記◆◆

今年も 4 月から JIC のロシア語講座が始まっています。すでに 2 か月ほど経過しましたが、大阪の講座では「新たにロシア語を勉強したい!」という方、「昔少しやっていた再開したい」という方が多く、入門クラス・初級クラスは大賑わい、レッスンはとても活気があります。上級クラスはまだ人数も少なめですので、ご興味を持たれましたらぜひお問い合わせください。少人数に加えて会話中心のレッスンなので、たくさん話す機会がありそうですよ! また、オフィスにはロシア関係の情報がたくさんそろっています。レッスンのついでにぜひ情報収集してくださいね! (JIC 大阪 小西 章子)

留学・研修各種パンフレットは JIC へ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

～Jクラブ(JIC友の会)のご案内～

JIC インフォメーションを年 6 回、また JIC のイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。
国際親善交流センター